



建学の精神

茨城キリスト教学園は
キリスト教精神に基き、
謙虚に真理を追求し、
公正を尊び、真の隣人愛をもって
人と社会に進んで奉仕し、
人類の福祉と世界の平和に貢献する
人間の育成を目的とする。

（『我らが学園の教育理念』）



茨城キリスト教学園 徽章
1950年（昭和25）、当時東京芸術大学助教授
だった高田正郎によってデザインされました。
テーマは「開かれた聖書に高き十字架」です。

学校法人 茨城キリスト教学園

〒319-1295 茨城県日立市大みか町6-11-1

TEL：0294-52-3215 FAX：0294-52-3493



創立

第二次世界大戦の敗戦後に、アメリカの〈キリストの教会〉(Church of Christ)は霊肉ともに荒廃した日本に福音を伝えるべく、宣教師たちを派遣しました。〈キリストの教会〉とは、18世紀末にアメリカで始まった「聖書復帰運動」(Restoration Movement)に端を発します。その目的は、少数の聖職者により支配され、教義によって分裂・濫立していた当時の教会を、聖書に立ち返ることによって、平等で一致のある教会の姿に復帰させることにありました。

日本では戦前から宣教師が宣教活動を開始し、茨城を中心に、教会の設立のみならず、ナザレ園やチルドレンズ・ホームなどの福祉施設、そして、茨城キリスト教学園のような学校をも設立しています。戦前から活動をしていたO・D・ビクスラーは茨城北部での伝道のかたわら、常陸太田の繁国良八らと共に学校設立を構想していました。

一方、日立の多賀では二つのグループがキリスト教の集会を持っていました。茨城大学工学部の前身となる「多賀工専」の教官室で岡正一を中心に持たれた〈超教派〉の集会と、日立製作所多賀工場のクラブハウス「清和館」で持たれていた浅野春三を中心にした〈無教会〉の集会でした。

1947年（昭和22）2月に後者二つのグループが多賀キリスト教会（当時）を設立し、「キリスト教精神に則った教育と社会事業をもって日立の市民に貢献したい」とのヴィジョンのもと、〈多賀学園〉の構想を打ち出します。

そして浅野らは、繁国を訪ねて協力を要請します。これらのメンバーに、O・D・ビクスラーらのアメリカ人宣教師も加わって、多賀学園構想は〈シオン学園総合大学〉の構想へとより大きく発展しました。



創立の祈りをささげた11人の創立者
アメリカの〈キリストの教会〉の宣教師たちと、日本の〈超教派〉及び〈無教会〉のメンバーが設立した「多賀キリスト教会」が手を携えて開校したのが、茨城キリスト教学園の前身〈シオン学園〉です。



創立の背景と歴史

1948年（昭和23）2月13日付けで、当時の文部省から財団法人〈シオン学園〉の設立が許可されました。1949年（昭和24）12月に、現在の〈茨城キリスト教学園〉に改名されましたが、シオンの名前は、今もなお多くの人々に親しまれています。シオンの由来として、以下の二つのことが考えられます。一つは、聖書の舞台となったイスラエルの首都エルサレムの別名。そして、もう一つは新約聖書のルカによる福音書2章52節に由来するものです。茨城キリスト教学園に学ぶ園児・生徒・学生が、イエスが被った知的、体力的、霊的、社会的という〈四つの恩恵〉に恵まれて成長するようにとの思いを込めて、創立者たちが〈四恩〉と命名したと伝えられています。

さて、E・W・マクミランはアメリカの諸教会に働きかけて、創立当初から1952年（昭和27）までの間、毎月2000ドルもの寄付金を送り続けました。また、その後も茨城キリスト教学園の個々の学生・生徒に、一人当たり月5ドルの学費援助をするという、いわゆる「5ドル献金」を続け、学園を支えました。今の学園があるのは、そうした多くの匿名の人たちの善意によるのです。

ところで、総合学園構想では、当初、候補地が三つありました。その中から、太平洋から筑波山、日光連山までを一望できる、ここ日立は大薨の地が選ばれました。そして、1947年（昭和22）11月16日、アメリカの〈キリストの教会〉での募金活動の中心的な役割を果たしたE・W・マクミランとO・D・ビクスラーを迎え、丘の上で記念の野外礼拝が持たれ、「創立の祈り」がなされました。茨城キリスト教学園が産声を上げた瞬間です。

このように、祈りと礼拝を持って始まった茨城キリスト教学園は、今もなお、その教育活動の根底に、祈りと礼拝を据えています。学園の各学校・部署（保育園・幼稚園、中学校・高等学校、大学、そして、託児施設）にはチャペル礼拝があるだけでなく、入学式・卒業式をはじめ、起工式や竣工式に至るまで礼拝形式で行なわれ、そこでの祈りは欠かせないものとなっています。短大の初代学長（第2代学園総長）のローガン・J・フォックスは1955年（昭和30）に『我らが学園の理想』の中で、「クリスチアンの学生が、ここに学ぶことによって、信仰が強まり神に対する深い愛と悩める人々への伝道の熱意が高まって、やがて燃えるがごとき情熱と化する学校。・・・敬虔にして、しかも、学問的な聖書研究の中心であり、有能にして献身的な福音の伝道者が陸續として流れ出て、日本にある諸教会に奉仕することができるような学校」と書いています。このように、創立当時はキリスト教伝道と信仰者の育成を強く意識した学校でした。

しかし、現在の茨城キリスト教学園は、「伝道学校」や「神学校」としての役割は他校に譲り、むしろ真理追求、公正尊重、真の隣人愛、社会奉仕、人類福祉、世界平和を願う人間を育成することを使命とするようになりました。このことは、1991年（平成3）『我らが学園の教育理念』によって確認されています。茨城キリスト教学園は、もはや狭い意味での「伝道」というミッションではなく、より広義の「使命」という意味でのミッションを果たすことを目的とするキリスト教学校（ミッションスクール）としてあるのです。